［有明抄］（2018.9.30）

年　　組　　号（氏名）

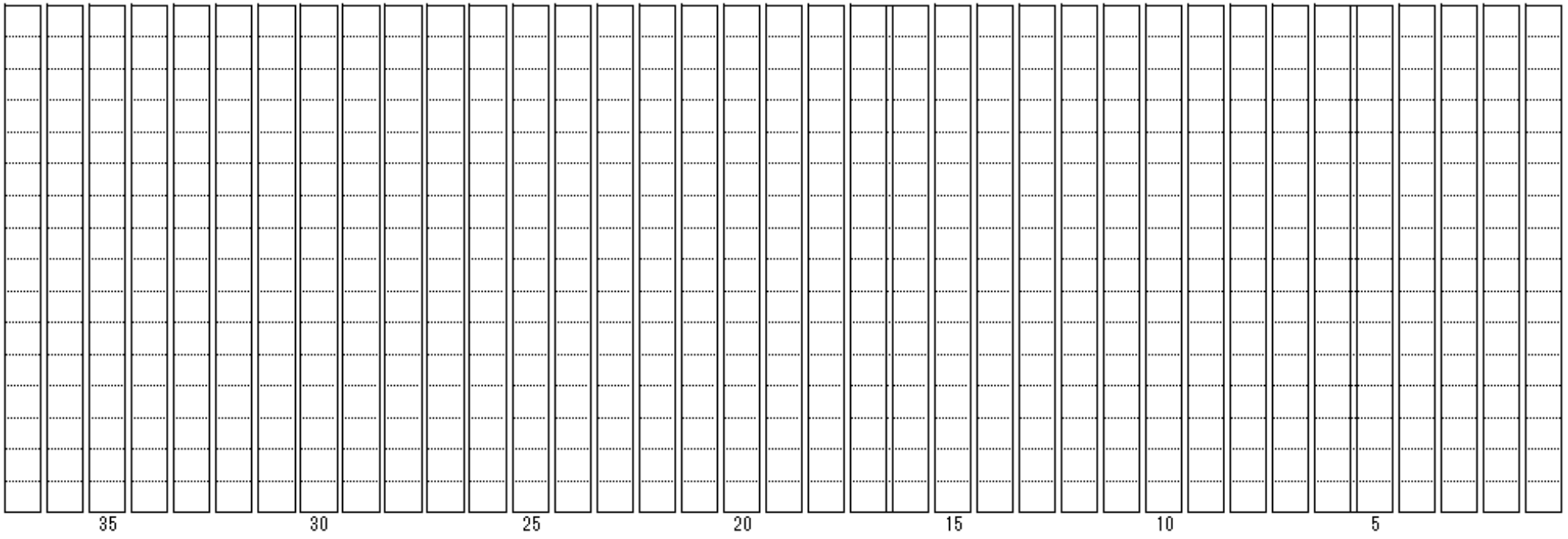
○　神無月など 10 月の４つの異名の由来（意味）を調べてみよう。

異　名	読み方	由来（意味）
雷無月		
鎮祭月		
陽　月		
拾　月		

○　10 月以外の月の異名と由来（意味）を調べてみよう。

○　身近な地域の伝統芸能や秋祭りについて調べてみよう。

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

また台風の襲来である。今年の日本列島は酷暑、水害、地震と自然災害の脅威にさらされたが、明日からはや10月である。代表的な異称は「神無月」。日本中の神々が出雲大社に集まると信じられ、出雲の国以外の神社には神々がいなくなってしまうと、この名がある◆多神教の日本人らしい命名と言えようが、ほかに「雷無月」「鎮祭月」などもある。また縁起のいい月という意味の「陽月」「拾月」という呼び名もあるように10月は収穫の喜びあふれ、祭りにぎやかな月である。気を取り直し元気を出そう◆祭りと言えば8日、佐賀市文化会館で待望の県伝承芸能祭が20年ぶりに復活。県内各地に伝わる浮立や踊りが披露される。もともと1994年から5年間、年ごとに県内各地に会場を変えて開かれていたが、途絶えていた◆維新150年の今年、山口知事が掲げる「さがの誇りと志の醸成」の一環として「肥前さが幕末維新博」とともに目で見て体験する企画で、ふるさと佐賀に連綿と受け継がれてきた伝統文化に触れるいい機会である。母ヶ浦面浮立（鹿島）鯨唄（唐津）至誠龍神（伊万里）高志狂言（神崎）など15団体が力の限り舞い踊る◆祭りは心沸き立つ。あの音、あの動き、あの衣装。予報によると佐賀地方の明日は台風一過、今週は祭りが似合う好天が続きそうである。（賢）